

2018「植村直己冒険賞」授賞式・記念講演会の開催 ～世界的冒険家の精神を継承～

2018「植村直己冒険賞」受賞者の岡村 隆さんの授賞式、および記念講演会を開催する
(受賞者の発表は2019年2月12日済み)。

《植村直己冒険賞》

本市出身で世界的な冒険家の植村直己さんの精神を継承し、周到に用意された計画に基づき、不撓不屈の精神によって未知の世界を切り拓くとともに、人々に夢と希望そして勇気を与えてくれた創造的な行動(業績)について表彰する。

【歴代の受賞者】

植村直己冒険賞 19人・1グループ(2人)、植村直己冒険賞特別賞 3人・2団体
(※ 詳細は、別添資料「歴代受賞者」のとおり)

1 授賞式・記念講演会

(1) 日時

6月1日(土) 午後1時30分～(開場:午後0時30分)

(2) 場所

日高文化体育館(日高町祢布954-6)

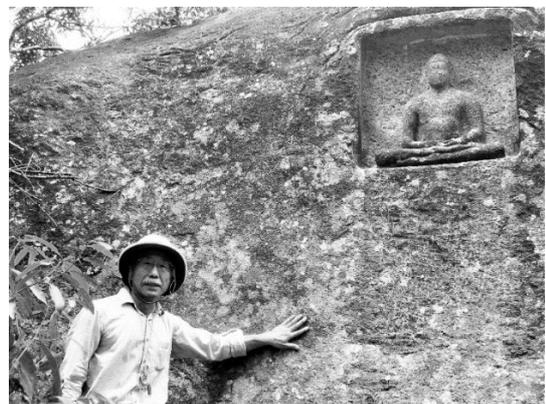
(3) 内容

ア オープニング	府中小学校児童(3・4年生)による合唱
イ あいさつ	豊岡市長
ウ 選考評	選考委員(作家)西木正明
エ 冒険賞授与	メダル、楯および副賞(100万円)
オ 記念講演	演題「道なき未知へースリランカ密林遺跡探検50年」

《プロフィール》

岡村 隆

1948年9月19日、宮崎県小林市生まれ。NPO法人 南アジア遺跡探検調査会理事長。法政大学探検部OB。地平線会議設立同人。モルディブ諸島調査隊隊長をはじめ、スリランカ密林遺跡調査隊隊長を務める。NPO法人設立後は、2010年スリランカ密林遺跡探検隊長、2016年には総隊長に着任。そのほか、西武文理大学非常勤講師、関野吉晴グレートジャーニー事務局を歴任。著書「モルディブ漂流」(筑摩書房)、「泥河の果てまで」(講談社)、「狩人たちの海」(早川書房)など。



【公式HP】南アジア遺跡探検調査会 <http://npo-sarers.org>

《参考》

「未知」の遺跡探査に情熱を傾けて約半世紀、南アジア密林遺跡探検調査

実施期間 1969年4月1日～2018年8月25日

趣 旨 大学時代に探検部に入部。未知の地域に赴いてそこを調査し、何かを探し出したり明らかにするという「探検のロマン」を追い続けてきた。1969年4月の偵察をスタートに2018年8月の遠征まで、約50年間の長きにわたり、スリランカの密林に残されている遺跡調査遠征を行ってきた。

1969年4月、イギリスから独立したばかりのモルディブ諸島への民間人初入国を目的に滞在していたスリランカにおいて、数多く眠っている遺跡の存在を知る。入国許可を待つ間、スリランカで最も大きい川、マハウエリ川周辺をボートで偵察を取行。急流でのボートの転覆により偵察は失敗に終わるが、4年後の1973年7月、第1次遠征を取行、4カ月間のジャングルの調査で31カ所の仏教遺跡を発見。以降、2018年8月の遠征まで、約50年もの間、同国およびモルディブでの遺跡調査遠征を実施。

冒険内容 スリランカ国内のジャングルには、無数に遺跡が存在するものの、現地政府や大学には調査費用や人員がなく、これまで放置された結果、盗掘や破壊が進んでいる。貴重な文化財が失われていく現状を目の当たりにし、「誰かが何とかしなければ」「学術調査の前段階である遺跡を発見し探査するという行為は専門家ではなく、アマチュアが行うべき」と考え、行動してきた。遠征は、1973年から2003年の間に7回、スリランカ遺跡調査の永続化のために2008年にNPO法人を設立してから2018年の間に6回行ってきた。また、モルディブでも1983年と1994年に単独で遺跡探査を行っている。

自然保護のため厳格な立ち入り規制が敷かれているスリランカ南東部のヤラ地方自然保護区にあるタラグルヘラ山仏教遺跡を探査するという企画を、2014年に具体案を立案してスリランカ政府考古局に働きかけ、2016年に合同隊での入域に成功したものの遺跡発見には至らなかった。

2018年8月18日、タラグルヘラ山に到達。探査2日間で山頂の仏塔跡や付近の岩寺院跡、密林の中の建造物跡など次々と発見した。23日には、マルワーリヤと呼ばれる孤立岩丘で先住民ウェッダ族の岩絵を発見。全11カ所の遺跡の発見・確認・調査を行ない、測量図や写真に収めた。またドローンによる空撮も行い、ドローンは考古局に寄贈。操縦指導を行なうというミッションも果たした。1973年の初調査以来、45年におよぶ探検プロジェクトは、今回の調査で多くの成果を上げた。

工夫・独創性 調査が困難な現地の人々の代わりに調査を進め、少しでも早く文化遺産として世に導き出すことと、現地の人々と協力して進めることによって、これ以上の遺跡破壊を食い止めることを目的に2008年NPOを設立。後世にも続く仕組み作りに情熱を注ぐ。探す遺跡がどんなに小さな見栄えのない遺跡でも、そのひとつひとつの調査の積み重ねと地道な作業の継続にこそ、自分にも結果がわからない「意味」があり、未知の対象への邁進という一点にこそ、なにものにも勝る「面白さ」があると信じて取り組んできた。

冒険経歴

- 1967年 法政大学に入学。同大学探検部に入部。
1969年 インド洋モルディブ諸島民間人初入国を狙って入国交渉。入国に成功し、5カ月間民族調査。
- スリランカ密林遺跡調査探検
- | | | |
|-----|----------------|----------|
| 偵察隊 | 1969年4月～6月 | マハウェリ川 |
| 第1次 | 1973年7月～12月 | マハウェリ川右岸 |
| 第2次 | 1975年7月～10月 | マハウェリ川右岸 |
| 第3次 | 1976年8月～11月 | マハウェリ川左岸 |
| 第4次 | 1979年12月～80年3月 | マハウェリ川左岸 |
| 第5次 | 1985年6月～10月 | ルフナ地方 |
| 第6次 | 1993年8月～9月 | ルフナ地方 |
| 第7次 | 2003年7月～9月 | ヤラ国立公園 |
- NPO設立まで
- 1969年～2007年 法政大学スリランカ密林遺跡調査隊として活動
※スリランカへ仏教遺跡探査隊を7次にわたり派遣
- 1983年～1994年 単独でモルディブ諸島遺跡探査
※ノルウェーの探検家トール・ヘイエルダールが発見した「太陽神殿」が仏塔の間違いであることを証明した。
- 2000年～2008年 スリランカ密林遺跡研究会として活動期
※スリランカ研究 井戸堀などの草の根支援
- 2008年2月 NPO法人 南アジア遺跡探検調査会を設立
- 2009年～2018年 遠征6回
※2014年、スリランカ政府考古局にヤラ国立公園タラグルヘラ遺跡探査について具体案を立案し、働きかけ。
※2016年、タラグルヘラ遺跡探査 失敗に終わる。
- 2018年 ヤラ国立公園タラグルヘラ山周辺遺跡探査

〔問合せ〕 豊岡市地域コミュニティ振興部生涯学習課 TEL 0796-23-0341

事業内容については

豊岡市立植村直己冒険館 TEL0796-44-1515